

## 4. 学会発表

### 4. 1. 国際学会

1. Morioka S, Osumi M, Ishibashi R, Sakauchi S.

The relationship between motor imagery ability and motor function, and frequency of body use in upper limb stroke hemiplegia.

12th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM). 2018. Paris

中等度～軽度の上肢運動障害を有している脳卒中患者において、運動イメージ能力は、麻痺側上肢の日常生活における使用頻度を増大させ、その使用の際の動作の質に直接的に関係していることが発表した。

2. Sato G, Osumi M, Nobusako S, Morioka S.

The effects of transcranial direct current stimulation combined with aerobic exercise on pressure pain thresholds and electroencephalography in healthy control: pilot study.

12th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM). 2018. Paris

経頭蓋直流電気刺激（tDCS）と有酸素運動の併用介入が圧痛閾値と安静時脳波活動に及ぼす影響を検討した。tDCS と有酸素運動との併用介入では、単独で tDCS や有酸素運動を行う条件と比べて有意に圧痛閾値の増加を認め、安静時脳波活動では後頭領域の Peak alpha frequency が有意に増加することが明らかとなった。

3. Hayashida, K, Nishi Y, Osumi M, Morioka S.

Effects of sharing goals with others on sense of agency and perceptual motor learning.

International Society of Electrophysiology & Kinesiology. 2018. Dublin

他者との目的共有によって運動主体感及び運動学習効果が向上されることを報告した。

4. Mizuta N, Takamura Y, Morioka S et al.  
Trunk instability with shank muscle co-contraction is masking the potential of walking ability in patients with post stroke hemiplegia.  
International Society of Electrophysiology & Kinesiology. 2018. Dublin  
脳卒中後症例を対象に，運動麻痺の重症度と歩行速度の関係性を調べた．運動麻痺が軽度にも関わらず歩行速度が低下している症例は，立脚期の体幹不安定性に伴う下腿筋の同時収縮が増大し，結果的に歩行速度を制限していることを発表した．
5. Nishi Y, Osumi M, Sumitani M, Yozu A, Morioka S.  
Expectation of Pain Kinematically Affects Goal-directed Movements in the Pain-related Fear-conditioning Paradigm.  
The 17th World Congress on Pain. 2018. Boston.  
痛みの恐怖条件付け下でリーチ動作を行い，痛み関連恐怖や痛みの予期により運動制御戦略が変わることを運動学的に筋電図学的に明らかにしたことを報告した．
6. Katayama O, Tsukamoto T, Osumi M, Kodama T, Morioka S.  
Neural processing mechanism of embodied disturbance caused by sensorimotor incongruence.  
The 17th World Congress on Pain. 2018. Boston.  
映像遅延装置と脳波を用い，感覚運動の不一致により惹起される異常知覚と運動の正確性低下に関連する脳内神経メカニズムを検討しその結果を報告した．
7. Nobusako S, Osumi M, Matsuo A, Zama T, Shimada S, Morioka S.  
Stochastic resonance improves visuomotor temporal integration  
The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science. 2018. Osaka.  
若年健常成人を対象に，確率共鳴装置が感覚・運動統合機能および遅延映像下の手運動課題に与える影響を調べた．確率共鳴装置は，即時的に感覚・運動統合機能を改善することを示した．

8. Miyawaki Y, Osumi M, Morioka S.  
Confusion within feedback control between cognitive and perceptual cues in self-other attribution: optimal cue integration in motor control.  
The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science. 2018. Osaka.  
運動の自他帰属における感覚運動手がかりと認知的手がかり間の相互関係について検証し、感覚運動手がかりの信頼性が低い場合のみ認知的手がかりが運動制御に影響することを報告した。
9. Katayama O, Tsukamoto T, Osumi M, Kodama T, Morioka S.  
Neural mechanism of distorted body perception caused by temporal sensorimotor incongruence.  
The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science. 2018. Osaka.  
映像遅延装置と脳波を用い、感覚運動の時間的不一致により変容した身体性と運動制御に関連する神経機構を検討した。身体性と運動制御に影響が出現するタイミングは、時間的不一致の程度により異なることがわかった。そして、運動関連領域および頭頂連合野の神経活動性が関連していることが明らかとなった。
10. Hayashida K, Nishi Y, Masuike A, Osumi M, Morioka S.  
Noticing the skill in a motor task enhances sense of agency: Employing intentional binding task.  
The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science. 2018. Osaka.  
Intentional binding を改変した課題を用い、運動課題の法則性へ気づきが運動主体感及び運動パフォーマンスを変化させることを報告した。
11. Osumi M, Nobusako S, Zama T, Yokotani N, Shimada S, Maeda T, Morioka S.  
The relationship and difference between delay detection ability and judgment of sense of agency.  
The 2nd International Symposium on Embodied-Brain Systems Science. 2018. Osaka.  
映像遅延の検出能力と運動主体感との相関を心理物理実験によって明らかにして、その差異についても考察した。

## 4. 2. 国内学会

1. 片山 脩, 塚元達也, 大住倫弘, 兒玉隆之, 森岡 周  
感覚運動の不一致による身体性変容の脳内情報処理メカニズムの検討  
日本疼痛学会. 2018. 6 月@長崎.  
映像遅延装置と脳波を用い, 感覚運動の不一致により惹起される異常知覚と運動の正確性低下に関連する脳内神経メカニズムを検討しその結果を報告した.
2. 成田 雅, 岡田洋平  
PD 患者における外的キューを用いた系列運動の練習効果  
～ワーキングメモリの違いが効果に及ぼす影響～  
第 12 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres. 2018. 7 月@京都  
パーキンソン病患者におけるワーキングメモリ機能の評価に Reading span test は有用であり, ワーキングメモリ機能の低下は反復練習による系列運動自体の改善の程度と関連することを報告した.
3. 藤井慎太郎, 生野公貴, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天  
静止立位時の重心動揺変数を用いた姿勢制御戦略の特徴分析  
第 12 回モーターコントロール研究会. 2018. 8 月@東京  
疾患横断的に静止立位時の重心動揺を計測し, 主成分分析およびクラスター解析による姿勢制御戦略の特徴分析を試みた. 各クラスター群は時空間変数, 周波数特性に独立の特徴を示し, 姿勢障害の特徴を反映しているものと考えられた.
4. 信迫悟志, 大住倫弘, 松尾 篤, 福知宇宙, 嶋田総太郎, 森岡 周  
確率共鳴現象は若年健常成人の視覚・運動統合機能を向上する  
第 18 回 認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2018. 9 月@大阪  
確率共鳴現象が若年健常成人の視覚・運動統合機能を即時的に向上することを報告した.

5. 舞田大輔, 藤井慎太郎, 森岡 周  
視覚入力を用いた自己運動錯覚の定量化の試み  
ーBimanual circle line coordination task を用いてー  
第 18 回 認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2018. 9 月@大阪  
健康者を対象に Bimanual circle line coordination task を用いて, 意図的な運動  
イメージと視覚入力による自己運動錯覚 (受動的な運動イメージ) の度合いを定  
量化し, 両者の関係性について調査した.
6. 寺田 萌, 高村優作, 河野正志, 森岡 周  
慢性期失行症例におけるジェスチャー観察時の視覚探索特性  
ー模倣障害の回復過程に関する一考察ー  
第 18 回 認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2018. 9 月@大阪  
慢性期失行症例を対象に, ジェスチャー観察時の視線の移動を計測し, 模倣障害  
の回復過程における代償戦略の可能性について報告した.
7. 水田直道, 高村優作, 藤井慎太郎, 蓮井成仁, 中谷知生, 堤万佐子,  
田口潤智, 笹岡保典, 森岡 周  
脳卒中後症例における運動麻痺と歩行速度の関係性から乖離した症例  
の歩行特性 ークラスター分析に基づく特徴分析ー  
第 40 回臨床歩行分析研究会定例会. 2018. 9 月@北海道  
脳卒中後症例を対象に, 運動麻痺の重症度と歩行速度の関係性において, これら  
の乖離に影響する要因について報告した.
8. 佐藤剛介, 大住倫弘, 信迫悟志, 森岡 周  
経頭蓋直流電気刺激と有酸素運動の併用介入が圧痛閾値および安静時  
脳波活動に及ぼす影響  
第 23 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9 月@福岡  
経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) と有酸素運動の併用介入が圧痛閾値と安静時脳波活  
動に及ぼす影響を検討した.tDCS と有酸素運動との併用介入では, 単独で tDCS  
や有酸素運動を行う条件と比べて早い時期に圧痛閾値の増加を認め, 増加率も最  
大であった.安静時脳波活動では後頭領域の Peak alpha frequency が有意に増加す  
ることが明らかとなった.

9. 西 祐樹, 重藤隼人, 大住倫弘, 森岡 周  
慢性痛患者における運動学的な姿勢評価システムの構築—日常生活と外来での運動の乖離—  
第 23 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9 月@福岡  
慢性痛患者一症例を対象に, 外来リハビリテーションおよび自宅生活での動作を加速度計にて測定し, 外来リハと比較して自宅生活では起立動作で腰部をかためて代償戦略をとっていたことを報告した.
10. 田中陽一, 佐藤剛介, 森岡 周  
疼痛の日内律動性と内因性要因の関連  
—疾患・疼痛病態の異なる 3 症例での検討—  
第 23 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9 月@福岡  
疼痛の日内律動性について疼痛の病態の異なる 3 症例の分析結果を報告した.
11. 重藤隼人, 大住倫弘, 森岡 周  
中枢性感作を有する疼痛患者における 疼痛関連因子の特徴の検証  
第 23 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9 月@福岡  
外来受診患者を対象に, 中枢性感作の質問紙である CSI と痛み関連因子の質問紙の評価を行い, CSI が高値を示すものは個々で特徴が異なることを報告した.
12. 藤井 廉, 今井亮太, 西 祐樹, 田中慎一郎, 森岡 周  
労働者の重量物持ち上げ動作時の運動恐怖と運動学的因子の関連性  
—三次元動作解析装置を用いて—  
第 23 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9 月@福岡  
腰痛を有する労働者を対象に, 重量物持ち上げ動作を分析し, 運動恐怖と運動学的因子との関連性について報告した.

13. 長倉侑祐, 奥埜博之, 信迫悟志  
急性期・亜急性期患者における内受容感覚の精度と認知・情動との関連性について  
第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9月@福岡  
急性期・急性期の骨折患者における, 内受容感覚の精度と痛み関連心理との関連性について報告した.
14. 長倉侑祐, 大住倫弘, 奥埜博之, 信迫悟志  
Neglect-like symptoms を呈した手指術後患者における両手協調運動の低下に対する一考察  
第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2018. 9月@福岡  
Neglect-like symptoms を呈した母指ばね指術後症例における母指・示指のタッピング運動を計測し, 運動の特徴を報告した.
15. 大松聡子, 高村優作, 今西麻帆, 森岡 周, 河島則天  
初期に重度半側空間無視を呈した症例の回復過程—慢性化した無視症状に対する経頭蓋直流電気刺激を用いた介入事例—  
第53回日本作業療法学会. 2018. 9月@名古屋  
初期に重度半側空間無視を呈した方の回受動注意/能動注意の観点に加え, 視線を計測することで, 視覚情報取得のプロセスから回復過程を追うことで, 慢性期でも受動注意の停滞と, 病識による無視空間への代償戦略が観察されたため, 経頭蓋直流電気刺激と視覚刺激を併用することで慢性期でも回復し, 目標である復職につながったことを報告した.
16. 大松聡子, 高村優作, 藤井慎太郎, 森岡 周, 河島則天  
異なる構成要素からなる動画提示時の半側空間無視の視線特性  
視覚科学フォーラム 第22回 研究会・シンポジウム. 2018. 9月@大阪  
異なる構成要素からなる動画提示時の半側空間無視の視線特性  
動画提示時の視線分析により半側空間無視の症状特性を知るために, 注視点をスクリーン画像の顕著性(サリエンシー)の分布と併せて解析することで, 動的顕著性にどの程度影響を受けているかを分析した結果, 無視症例は右空間の顕著性に視線が惹きつけられやすいことを報告した.

17. 大松聡子, 田中幸平, 生田純一, 高村優作, 森岡 周, 河島則天  
自動車運転動画提示時における半側空間無視症例の視線特性  
第 12 回日本作業療法研究学会学術大会. 2018. 9 月 @ 埼玉  
ドライブレコーダーで撮影したシンプルな運転動画を提示した際の視線を分析した結果, 健常者や右半球損傷後に運転再開をした症例はカーブや曲がる方向に視線が向かい, その方向が右でも左でも同様の傾向を認めた. 一方, 無視症例では右カーブや右折では健常と類似した視線特性を示したが, 左カーブや左折では左空間への視線探索が乏しかった. また, 全注視回数は健常と比較して少なく, 逆に平均注視時間は延長したことを報告した.
18. 大住倫弘, 信迫悟志, 佐藤剛介, 森岡 周  
Thermal grill illusion によって誘発される疼痛は経頭蓋直流電気刺激によって軽減する  
第 26 回日本物理療学会学術大会. 2018. 9 月 @ 宮崎  
神経障害性疼痛を実験的に誘発させる Thermal grill illusion を用いて, 経皮的直流電気刺激が灼熱痛および電撃痛を緩和させることを報告した.
19. 宮脇 裕, 大住倫弘, 森岡 周  
自己と他者の区別における運動制御変容機構の解明  
第 1 回リハビリテーションのため姿勢運動制御研究会 2018. 9 月 @ 奈良  
運動制御における最適手がかり統合の適用を示唆する実験結果を報告した.
20. 水田直道, 高村優作, 藤井慎太郎, 蓮井成仁, 中谷知生, 堤万佐子, 田口潤智, 笹岡保典, 森岡 周  
脳卒中後症例における運動麻痺と歩行速度の関係性からみた歩行特性  
第 1 回リハビリテーションのため姿勢運動制御研究会 2018. 9 月 @ 奈良  
脳卒中後症例の歩行障害の特徴を分類し, 個々の状態に応じたリハビリテーションを進めていくうえで重要な知見を報告した.



21. 蓮井成仁, 岡田洋平  
脳卒中患者の歩行障害の改善を目的とした短下肢装具の適応に関する研究  
第 1 回リハビリテーションのため姿勢運動制御研究会 2018. 9 月@奈良  
短下肢装具の足継手条件の差異が脳卒中患者の歩行パラメータに及ぼす影響について報告した.
22. 藤井慎太郎, 生野公貴, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天  
立位姿勢制御の特徴分類 ―多様な症例より得た重心動揺データによる疾患横断的分析―  
第 1 回リハビリテーションのため姿勢運動制御研究会 2018. 9 月@奈良  
立位姿勢時の時空間特性や周波数特性を分析し, 姿勢障害改善のためのリハビリテーション指針を立案した.
23. 信迫悟志, 高村優作, 石橋凜太郎, 谷頭幸恵, 河野正志, 富永孝紀, 石橋ゆりえ, 奥埜博之, 大住倫弘, 嶋田総太郎, 森岡 周  
失行症と視覚・運動統合障害に共通した責任病巣 映像遅延検出課題と Voxel-based lesion-symptom mapping からの証拠  
第 16 回日本神経理学療法学会学術大会. 2018. 11 月@大阪  
病巣解析を用いて, 失行症と視覚・運動統合障害に共通した病巣を報告した.
24. 植田耕造, 光吉俊之, 久保洋平, 平田愛理, 早瀬裕之, 西山芽生, 北川拳士, 山本准, 光武翼, 岡田洋平, 森岡 周  
Pushing の出現に付随して自覚的姿勢垂直位の傾斜を認めた重度左半側空間無視の一症例  
第 16 回日本神経理学療法学会学術大会. 2018. 11 月@大阪  
重度の左半側空間無視と運動麻痺を呈し、pushing の増強に付随して自覚的姿勢垂直位の傾斜を認めた症例に関して, pushing の程度と自覚的姿勢垂直位, 半側空間無視の経過などを報告した.

25. 高村優作, 藤井慎太郎, 大松聡子, 今西麻帆, 生野公貴, 田中幸平, 万治淳史, 阿部弘明, 森岡 周, 河島則天  
空間性／非空間性注意の包括的評価による半側空間無視の回復過程の把握  
第 16 回日本神経理学療法学会学術大会. 2018. 11 月 @大阪  
半側空間無視の回復過程について非空間的・空間的注意の合併による回復過程の相違について発表した.
26. 水田直道, 高村優作, 藤井慎太郎, 蓮井成仁, 中谷知生, 堤万佐子, 田口潤智, 笹岡保典, 森岡 周  
脳卒中後症例における運動麻痺の重症度と歩行速度の関連性からみた歩行障害の病態特性 ―運動学／筋電図学的な側面からの検討―  
第 16 回日本神経理学療法学会学術大会. 2018. 11 月 @大阪  
脳卒中後症例の歩行能力を制限する要因の相違について, クラスタ分析を用いてそれぞれのサブグループの歩行特性を運動学ならびに筋電図学的に検証し報告した.
27. 藤井慎太郎, 生野公貴, 森岡 周, 河島則天  
脳卒中患者における静止立位時の側方重心偏倚の特徴に着目した重心動揺特性分析  
第 16 回日本神経理学療法学会学術大会. 2018. 11 月 @大阪  
脳卒中患者では, 運動麻痺の重症度が高い症例において麻痺／非麻痺側双方への側方偏倚が生じやすいが, 麻痺／非麻痺側への偏倚方向の違いにより姿勢制御戦略が異なる傾向にあることが示唆された.
28. 大住倫弘, 住谷昌彦, 大竹祐子, 西上智彦, 壬生彰, 西祐樹, 今井亮太, 佐藤剛介, 長倉侑祐, 森岡 周  
地域在住の腰痛有訴者における腰椎屈曲 - 伸展運動の運動学的特徴  
第 6 回日本運動器理学療法学会学術大会. 2018. 12 月 @福岡  
腰痛を自覚する地域在住の一般住人を対象に, 腰椎屈曲 - 伸展運動を計測し, 運動恐怖に影響されやすい運動学的特徴を報告した.

29. 今井亮太, 大住倫弘, 石垣智也, 森岡 周  
術後 1 週間の痛み改善度は 1 ヶ月後の痛み予後と関連する  
第 6 回日本運動器理学療法学術大会. 2018. 12 月 @福岡  
術後 1 週間の疼痛強度の改善程度を算出することで, 予後を予測できる可能性が示唆された.
30. 重藤隼人, 大住倫弘, 森岡 周  
疼痛強度における中枢性感作と心理的因子の関係性  
第 6 回日本運動器理学療法学術大会. 2018. 12 月 @福岡  
心理的因子が中枢性感作をもたらして疼痛を重症化させるという仮説を検証した.  
その結果, 不安・抑うつ・破局的思考は中枢性感作を介して疼痛強度に影響していることを報告した.
31. 藤井 廉, 今井亮太, 西 祐樹, 西村隆文, 田中慎一郎, 森岡 周  
痛み関連恐怖による重量物持ち上げ動作の動作特性  
第 6 回日本運動器理学療法学術大会. 2018. 12 月 @福岡  
腰痛を持つ労働者を対象に, 重量物持ち上げ動作を三次元動作解析装置を用いて定量的に分析し, 痛み関連恐怖と時間的指標および運動学的指標との関連性を検討した.
32. 藤井 廉, 今井亮太, 西 祐樹, 田中慎一郎, 森岡 周  
腰痛を持つ労働者の重量物持ち上げ動作の運動学的解析ー痛み関連恐怖と動作特性との関連性ー  
第 11 回日本運動器疼痛学会. 2018. 12 月 @滋賀  
腰痛を持つ労働者を対象に, 重量物持ち上げ動作を運動学的に分析し, 痛み関連恐怖と運動学的指標との関連性を検討した.
33. 西 祐樹, 重藤隼人, 大住倫弘, 森岡 周  
慢性膝痛患者の日常生活における歩行の詳細分析  
第 11 回日本運動器疼痛学会. 2018. 12 月 @滋賀  
外来リハビリテーションと自宅生活での歩行を比較して, 自宅での歩行の質が低下していたことを報告した.

34. 田中陽一, 森岡 周  
日中の活動が慢性疼痛の日内変動に及ぼす影響  
—腕神経叢損傷後疼痛を有する1症例での検討—  
第11回日本運動器疼痛学会. 2018. 12月@滋賀  
腕神経叢患者に対して日中の疼痛律動性の評価と律動性に影響を与える要因について検討した.
35. 重藤隼人, 大住倫弘, 森岡 周  
中枢性感作と心理的因子の疼痛強度に対する関係性  
第11回日本運動器疼痛学会. 2018. 12月@滋賀  
心理的因子が中枢性感作をもたらして疼痛を重症化させるという仮説を検証した.  
その結果, 不安・抑うつ・破局的思考は中枢性感作を介して疼痛強度に影響していることを報告した.
36. 信迫悟志, 大住倫弘, 松尾 篤, 古川恵美, 嶋田総太郎, 中井昭夫, 森岡周  
確率共鳴現象が運動の不器用さに与える即時効果 一症例を通じた検討  
第5回日本小児理学療法学会学術大会. 2018. 12月@大阪  
発達性協調運動障害を有する10歳児一例に対する確率共鳴デバイスの即時効果について報告した.
37. 林田一輝, 益池章裕, 西 祐樹, 宮脇 裕, 森岡 周  
運動課題に伴う予測が運動主体感および運動パフォーマンスに与える効果  
第23回日本基礎理学療法学会学術大会. 2018. 12月@京都  
運動課題の法則性へ気づきが運動主体感及び運動パフォーマンスを変化させることを報告した.

38. 宮脇 裕, 大谷武史, 林田一輝, 大住倫弘, 森岡 周  
感覚の自他区別が運動制御に及ぼす影響：自他区別課題開発のための予備的研究  
第 23 回日本基礎理学療法学会学術大会. 2018. 12 月 @ 京都  
先行研究の自他帰属課題を脳卒中片麻痺患者の上肢単関節運動にて実施可能なように修正し, その修正版課題の妥当性を報告した.
39. 石垣智也, 宮下敏紀, 尾川達也, 沖野裕大, 篠宮 健, 松本大輔  
訪問リハビリテーションにおける 2 ステップテストを用いた定量的な歩行能力評価ー信頼性・妥当性の検討および屋外歩行自立に関する基準値の作成ー  
第 5 回日本地域理学療法学会学術大会. 2018. 12 月 @ 神奈川  
訪問リハビリにおいても実施可能な歩行能力評価として, 2 ステップテストの在宅環境における評価の信頼性・妥当性を検証し, 屋内歩行や屋外歩行自立に対する基準値を作成した.
40. 高村優作, 藤井慎太郎, 大松聡子, 今西麻帆, 生野公貴, 田中幸平, 万治淳史, 阿部弘明, 森岡 周, 河島則天  
半側空間無視の諸症状とその回復過程ーデータベースから抽出した典型症例の症状と回復過程の分析ー  
第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2018. 12 月 @ 神戸  
半側空間無視の回復過程について非空間的・空間的注意の合併による回復過程の相違について典型症例を含めて発表する.
41. 寺田萌, 高村優作, 河野正志, 森岡 周  
自動詞ジェスチャー模倣時の視覚探索特性と失行重症度の関連性ー模倣障害を呈した脳卒中症例における検討ー  
第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2018. 12 月 @ 神戸  
左半球損傷症例を対象に自動詞ジェスチャー模倣時の視線計測を行った結果, 模倣障害の重症度が高い症例ほど手に対する注視時間が延長することを報告した.

42. 大松聡子, 赤口 諒, 奥埜博之, 久岡由依, 沖田 学, 高村優作, 森岡 周, 河島則天  
著明な右視線偏向を呈した半側空間無視症例の病態メカニズム  
—情動喚起画像を用いた評価と介入—  
第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2018. 12 月@神戸  
行動特性が類似した前頭葉機能障害を伴う著明な右視線偏向を呈した半側空間無視 3 症例に対し, 脳画像所見と行動データを分析し考察を発表した.
43. 大松聡子, 田中幸平, 生田 純, 高村優作, 森岡 周, 河島則天  
運転動画視認時における半側空間無視症例の視線特性の定量的評価  
第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2018. 12 月@神戸  
自動車運転場面における半側空間無視症状の特性を客観的に把握する評価手法を考案して, その有用性を左右の視線分布や注視回数, サッカーなどの変数で検証した内容を発表した.
44. 藤井慎太郎, 高村優作, 大松聡子, 生野公貴, 田中幸平, 万治淳史, 阿部弘明, 森岡 周, 河島則天  
半側空間無視における反応時間の空間分布特性  
—机上検査と日常生活場面の乖離を埋める新たな評価の視点—  
第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2018. 12 月@神戸  
机上検査と生活場面での無視症状による分類より, 受動的注意を惹起するような選択反応課題によって得られた反応時間の空間分布特性の違いについて検討した. 受動的注意の評価を併用することで, より日常生活場面における無視症状の病態理解に有用であることが示唆された.
45. 信迫悟志, 大住倫弘, 中井昭夫, 前田貴記, 森岡 周  
子どもにおける運動主体感の時間窓  
第 7 回身体性システム領域全体会議. 2019. 2 月@岩手  
若年健常成人と比較して, 学童期小児では運動主体感を感じる感覚・運動統合の時間窓が短縮していることを示した.

46. 西 祐樹, 大住倫弘, 矢野史朗, 森岡 周  
歩行における筋出力の学習過程－脊髄損傷により身体所有感の損失が生じた 1 例－  
第 7 回身体性システム領域全体会議. 2019. 2 月@岩手  
脊髄損傷患者一例を対象に歩行の筋出力の適応的学習に伴い身体所有感は改善したことを報告した.
47. 大住倫弘, 信迫悟志, 佐藤剛介, 森岡 周  
Thermal grill illusion によって誘発される疼痛は経頭蓋直流電気刺激によって軽減する  
第 7 回身体性システム領域全体会議. 2019. 2 月@岩手  
神経障害性疼痛を実験的に誘発させる Thermal grill illusion を用いて, 経皮的直流電気刺激が灼熱痛および電撃痛を緩和させることを報告した.
48. 宮脇 裕, 大谷武史, 森岡 周  
脳卒中後遺症における明示的主体感と運動制御の乖離: 自他判断時の錯覚的自己帰属  
第 7 回身体性システム領域全体会議. 2019. 2 月@岩手  
自他帰属課題において, 脳卒中患者が主観的自他判断時に他者運動を自分と判断する誤帰属を示したことを報告した.